

学内広報

2024.2.22

no.1579



UTokyo



「世界の誰もが来たくなる大学」のビジュアルアイデンティティ確立へ

東大のロゴがちょっと変わります

不要になった学内の古本をリサイクルする学生企画

ぴあサポ 冬の本祭り

4月から

「世界の誰もが来たくなる大学」になるための
ビジュアルアイデンティティ(VI)確立へ

東大のロゴマークが

ちよつと

変わります

2024年度から東京大学のロゴマークが変わります。どのように変わるのか、なんのために変えるのか、なにを目指しているのか。学内に検討チームを立ち上げ、大学の活動指針のもとで議論を重ねてきた岩村水樹理事に、今回のリニューアルにかけた思いを語ってもらいました。構成員が使用する際のガイドラインの要点とともに紹介します。



理事

岩村水樹

広告、外資のコンサルティング、ブランド企業、大学教員などを経てグローバルアジア太平洋・日本マーケティング担当バイスプレジデント。2021年4月に本学理事（総長ビジョン推進担当）に就任。著書に『ワーク・スマート』（中央公論新社／2016年）ほか。本学教養学部卒。

東大のブランド価値を可視化する

2021年に理事に就任した当初から、東大にはビジュアルアイデンティティ（VI）の確立が必要だと感じていました。VIとは、ブランドの価値を可視化して伝えるデザイン要素全般のことです。2021年に発表した「UTokyo Compass」では、大学への支持と共感の増進という目標を掲げ、「新たなブランド確立のためのマネジメントシステム構築」を行う旨を記しました。検討チームを立ち上げ、複数部署の教職員とVIを考えるワークショップを行うと、各々が感じる東大の誇らしい部分として、世界の公共に貢献しようと高い志を持って研究に邁進していることなどが挙がりました。一方、多様性に富む学生や教職員が進取の気性を持って新しいことに取り組んでいるのに、それがあまり社会に伝わっていないとの指摘もありました。

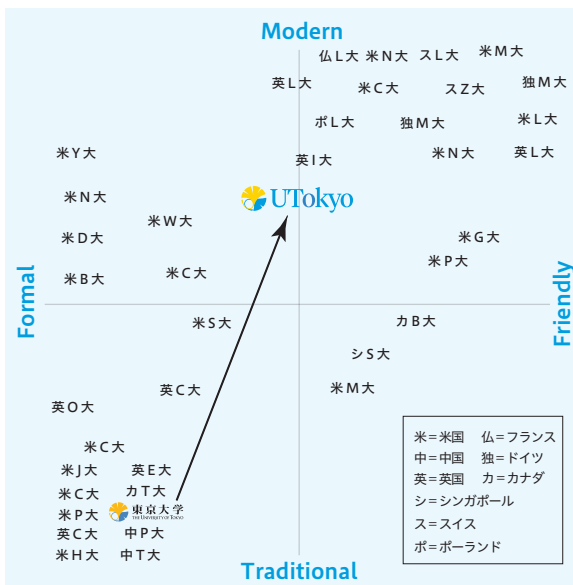
現状では、印刷物でもウェブでも、組織やプロジェクトごとに違うスタイルの発信がされています。それらを見ても東大とい

う一つの組織から出たものとは思えません。「世界の誰もが来たくなる大学」になるには、国外に伝わるのが大事だと思いました。また、一貫したVIにより、国内では大変に強い東大というマスターブランドの強さを構成員の誰もが活用できるのはチャンスだとも考えました。

よりModernでFriendlyなロゴに

VIの軸となるロゴマークの検討では、世界の多くの大学の事例を集めて分析したところ、modernかtraditionalか、friendlyかformalかという2軸で整理することができ、東大の現状のものはtraditionalかつformalの象限に位置づけられることがわかりました。デジタルでの発信が主となる現代では、どのデバイスからアクセスしてもシンプルで直感的にわかりやすいことがデザインの基準となっています。私がバイスプレジデントを務めるGoogleのロゴ変更（2015年）もその流れに沿ったものでした。紙が主だった時代にできたものとデジタル時代にできたものとは自ずと作り方が異なります。Googleが2014年に発表したマテリアルデザインの考えが現在は主流となっています。情報のやりとりの主流はモバイルであり、小さな画面で見るとの視認性の高さが重要です。それを踏まえて、formalよりfriendlyを、伝統より未来を志向するVIを、と決めました。

ロゴの文字部分は、黒色だと厳格で権威的な印象につながると考え、明るくオープンな姿勢を示すためにスクールカラーの淡青色に変更し、黄色と淡青色の組み合わせを強調。フォントも現代的なものに変更しました。一番のポイントは、メインのロゴを「UTokyo」とすることです。世界に開かれた大学のシンボルとしては、読め



世界の主要大学のロゴマークを集め、検討チームで配置したポジショニングマップ。東大は、よりfriendlyに、よりmodernな位置へとシフトします。formal⇔friendlyは、subtle⇔boldと考えてもおかしくないでしょう。東大のほかが何大なのかは想像してみてください。





1948年
東大マーク (旧)※



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

2004年
東大マーク (現)

2024年 ↓ UTokyo Logotype A



UTOKYO

2013年 英語略称をUTokyoに



UTokyo

る人が限られる漢字よりも多くの人に伝わる可能性がある英字がふさわしいと判断しました。

これは大きな変更でした。「UTokyo」は「University of Tokyo」の一般的な略称ですが、浸透しているとは言えず、私自身も理事に就任するまで知らなかったぐらいです。一方、海外で「東京大学」と示しても「Todai」と伝えても、わかる人は残念ながら限られます。世界の公共性に奉仕する大学であるために、まずは存在を知ってもらうことが必要と判断し、思い切って舵を切りました。場面にに応じて使ってもらえるよう漢字・英字併用のロゴ[※]も用意し、構成員向けのVIガイドラインも制定しました。ルールに沿えばだれでも使える、東大コミュニティにとってアクセシブルなVIですので、積極的に使ってほしいと思っています。

“UTokyo時代”の始まりです

UTokyo Logotypeは、変化が大きい時代のなかで、東大が世界の誰もが来てくれる場であるためのシンボルです。学会発表でもプレゼンテーションでも打ち合わせでも、何か学外の人とやりとりする際には、所属部局・部署のロゴと組み合わせてどんどん使ってください。“UTokyo時代”の始まりです。未来の世界を見据えて新しい東大に向かおうというこのムーブメントにぜひ参画してください。

そのロゴがついたTシャツを自分で着たいかどうかという「Tシャツテスト」を考えると、新しいUTokyo Logotypeなら私自身も着て外に出たいと思えそうです。理事就任時、本誌で「Unlock the Potential!」というメッセージを出しましたが、今回のロゴがそのためのスプリングボードになることを期待しています。

VIガイドラインの要点

※詳しくはUTokyo Portalに掲載のVIガイドライン本体でご確認ください

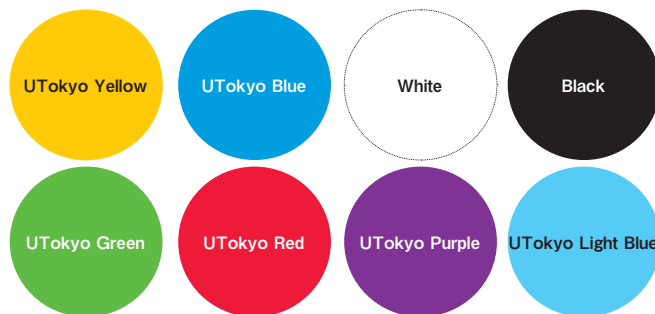
●部局・部署のロゴや名前と組み合わせて使えます



組織のロゴマークがある場合は、区切り線を入れ、左にUTokyo Logotype、右に組織ロゴを配置する形で使えます。組織のロゴマークがない場合は、UTokyo Logotypeと組織の英語名称を組み合わせる形で使えます（指定フォントの使用が必須です）。

●推奨フォントと推奨カラーがあります

セリフ体 ———— Tiempos Headline ヒラギノUD明朝 Noto Serif JP
サンセリフ体 ———— National ヒラギノUD角ゴシック Noto Sans JP



VIガイドラインでは、コミュニケーションの場面に応じて3つの方向性を持つ8つのブランドカラーを使うことを推奨しています。また、セリフ体とサンセリフ体の推奨フォントとして6つのフォントを定めています。

●本学構成員(教職員・学生)は審査不要で使えます

従来は広報課へのメール申請→審査→許可→データ提供というフローでしたが、今後はフォームから申請→データダウンロードという流れに変更。本学構成員ならロゴを使いたいときにすぐ使えるようになります。校友会、共同研究などの使用の際は従来同様に審査が必要です。

詳しくはVIガイドラインでご確認ください

※閲覧にはUTokyo Accountが必要です。UTokyo Portal→本部広報課→2 ロゴマーク 問い合わせ：内線22031 kouhoukikaku.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp



※UTokyo Logotype C (Secondary)



※東大マーク (旧) は特別な場合のみ使用が認められる場合があります。

4年ぶりに開催された古本リサイクルイベント

「びあサポ本祭り」

2024年1月24日、総合図書館ライブラリープラザで「びあサポ本祭り」が行われました。ピアサポート（仲間による支援）活動に携わる学生たちが、不要になった古本を学内で集めて配布したイベントです。「支え合いのキャンパス」を目指す一環で4年ぶりに行われた取り組みを、集まった本の内訳とともに紹介します。

相談支援研究開発センターのピアサポートルームでは、学生ボランティアのピアサポーターを組織しています。研修を経て認定されたピアサポーターたちは、各々の興味や得意分野に応じてチームに分かれ、日々活動しています。20ほどあるチームのなかで、本好きの学生が集まる「本チーム」が運営するのが、「本祭り」。不要になった本を集め、必要な人に向けて配布する取り組みです。

本チームの担当者・渡邊さんによると、2018年と2019年に実施した後、本祭りはコロナ禍により休止。おすすめ本をウェブで共有する「びあサポ本棚」や、「雨の日に読みたい本」「卒業シーズンに読みたい本」などのテーマを決めて語り合う「ブックサロン」といったオンライン活動に注力してきましたが、機が熟した今、4年ぶり3回目の開催となりました。

1700冊中1500冊が新天地へ

ポストやウェブ、SNS、UTASなどで呼びかけた募集期間は、12月18日から1月22日。総合図書館の協力を得てライブラリープラザ入口に回収箱を置くとともに、各部局の図書館や研究室に協力を募って台車で本を回収する作業を重ねた結果、約1700冊が集まりました。「前回は800冊だったので倍以上です。たぶん1200冊程度は研究室からの寄贈です。特に社会科学系の先生がたくさん出してくれてうれしかったです」と渡邊さん。1月24日の10人ほどの有志でプレハブ研究棟のピアサポートルームから本を選び入れ、壁の棚に並べました。おおむねサイズごとに揃え、外国語の本はま

めたものの、あとはほぼランダムな配列。「想定以上に数が多くてそうするしかなかったんですが、宝探し感覚で見てもらえるかなとも思いました」(渡邊さん)。12時に会場が開くと、お客さんが次々に訪れ、本は飛ぶように捌けました。なかには持参した紙袋いっぱい本を詰める人も。3時間のうちに約1500冊の本が新しい持ち主を見つめました(残った本は東大基金の「Books for NEXT」へ)。

目指すは支え合いのキャンパス

当日は台車で本をピストン輸送する係だった学生代表の篠原さんによると、ピアサポートルームには、①心身の健康、②居場所づくり、③人とのつながり、④役に立つ情報の交換、⑤自己理解の深化、⑥多様なものの見方の獲得、という6つの目標があります。本祭りは主に④に沿った活動ですが、⑤や⑥にも関わりそう。ただ、目指す「支え合いのキャンパス」づくりは実際には難しく、構成員の協力がぜひとも必要だと学生代表は訴えます。「体調が悪そうな人を見たら声をかけるとか、ちょっとした支え合いが日頃から生まれる環境が理想ですが、もちろん私たちだけではできません。学生同士の交流が自然に生まれる空間をつくれるよう、力を貸してもらえたらうれしいです」。「学生がふらっと立ち寄れる場所をつくりたい」と願うピアサポートルームですが、知名度は約半数はあるものの、イベントへの参加者はまだまだ少ないとのこと。どこかでもぐらのマスコットを見かけたら、一步一步ピアサポート活動を広めている彼らのことを想像してください。



●出版社別冊数

冊	出版社名	冊
1	岩波書店	163
2	講談社	63
3	新潮社	54
4	中央公論	49
5	東京大学出版会	47
6	白泉社	34
7	文藝春秋	31
7	有斐閣	31
9	筑摩書房	27
10	角川書店	24
11	ミネルヴァ書房	19
11	日本評論社	19
13	勁草書房	15
14	早川書房	13
15	小学館	12
15	信山社	12
17	未来社	11
17	集英社	10
18	成美堂出版	10
18	双葉社	10
18	朝日新聞出版	10

●著者別冊数

冊	著者名	冊
1	美内すずえ	34
2	池波正太郎	14
3	郷田マモラ	8
4	カズオ・イシグロ	7
5	東野圭吾	7
6	佐々木毅	6
7	佐々木倫子	6
7	佐藤博樹	6
7	村上春樹	6
10	ミハエル・エンデ	5
10	伊坂幸太郎	5
10	加藤周一	5
10	山口定	5



配布開始時点で棚にあった本の背を撮って広報課員が書名を読み取り、1700冊中の1000冊を数えてみると… ●出版社では岩波書店がダントツの1位（新書90冊+文庫45冊+その他28冊）。ほかにも新書と文庫を擁する老舗の版元各社が上位に入りました。6位の白泉社はすべて美内すずえ先生の名作漫画『ガラスの仮面』です。社会科学系の部局からの出品が多かったことは、有斐閣、ミネルヴァ書房、信山社といった版元の顔ぶれからも見て取れます。●1位のほか、3位（『モリのアサガオ』）と7位タイ（『動物のお医者さん』）に漫画家が入りました。2位は『剣客商売』シリーズ作が多数出品された時代小説の巨匠。4位は2017年ノーベル文学賞受賞者。5位、7位タイ、10位タイに現代日本文学の人気作家が入り、6位の第27代総長、7位タイの社会科学研究所名誉教授と、本学ゆかりの研究者の名も見られました。

本祭りだけじゃない！「支え合いのキャンパス」を目指す
ピアサポートルームの多彩な活動



①ライブラリープラザの入口には本チームのメンバーが手がけた看板が。②会場入口ではマスコットの手作り人形が出迎え。③学生を中心に286人のお客さんが来場しました。④棚の右端に見えるのは、「1回で受かる！ 普通免許問題集」（成美堂出版）。入試に比べれば簡単に思われる試験でも準備万端で臨もうとする東大生気質の表れか？ ⑤オールドファンには懐かしいパラフィン紙（グラシン紙）カバーの岩波文庫も多数並んでいました。昔は新潮文庫や角川文庫のカバーもパラフィン紙でした。⑥豪華な装飾の箱入りエンデ全集（岩波書店）。「目をつけていましたが、すぐに捌けてしまいました」（渡邊さん） ⑦⑧会場には広報チームがカラープリンターで手作りしたしおりとブックカバーが提供されていました。⑨教育学部で心理学を学んでいる篠原さんがマークしていた本。「ほかにも検査に関する本がたくさんありました。残ったら引き取りたいかな……」（篠原さん） ⑩持ち主による付箋や書き込みを目にすることがあるのは古本の一つの醍醐味。手に取った人にとってはgood bookかもしれません。

⑪8月、総合図書館前広場が緑日会場に。音を出せないため、「アイドル」「東京音頭」といった曲をFM電波で飛ばして参加者がバッジ型受信器で受信し、イヤホンで聞きながら踊るシステムを採用。暗闇の中、ワークショップで作った団扇や提灯の手に無言で踊る群れが、傍目には異様ながらも羨ましく見えたはず！ ⑫様々なアートを通じて人とつながり新しい自分を見つけるためのワークショップ。作品の数は12月に総合図書館の展示スペースで披露されました。⑬11月にはキャンパスで独特な香りを放つ銀杏の実を掃除する取り組みを実施。⑭簡単なものづくりをしながらゆったりおしゃべりするのがびあサボラウンジ。9月にはライブラリープラザでエコブックとしおりを作りました。



海と希望の学校 — 震災復興の先へ —

第30回

岩手県大槌町にある大気海洋研究所・大槌沿岸センターを舞台に、社会科学研究所とタッグを組んで行う地域連携プロジェクト——海をベースにしたローカルアイデンティティの再構築を通じ、地域の希望となる人材の育成を目指す文理融合型の取組み——です。研究機関であると同時に地域社会の一員としての役割を果たすべく、活動を展開しています。

奄美の島と海と希望

大気海洋研究所海洋底科学部門 教授 横山祐典



うがみんしょーらん(奄美の言葉で「こんにちは」)。こちら(右写真)は奄美群島のきれいな海の写真です。奄美大島南部を東西に貫く大島海峡を写しています。向こうに見えるのは加計呂麻島です。医科学研究所の奄美病害動物研究施設の近くから撮ったもので、最近は毎月のように訪れている場所です。

日本の南北に長い国土に、東京大学の施設が点在しています。数ある施設の中で一番南にあるのが医科学研究所の奄美病害動物研究施設です。奄美大島の一歩大きな街である奄美市名瀬から1時間半ほどかけて車で南に移動した、大島海峡に面する瀬戸内町古仁屋にあります。熱帯性の風土病であるフィラリア症の研究やハブ咬症の治療法の開発など多くの成果を上げている研究拠点です。大気海洋研究所に所属している私がなぜこの施設を訪れているかというと、「海と希望の学校in奄美」のプロジェクトも含んだFSI事業でもある「亜熱帯・Kuroshio研究拠点の形成と展開」に協働で取り組ませていただいているためです。



2022年12月に奄美市で開催されたシンポジウム「奄美KUROSHIO 研究拠点の夢を語る」最前列左から3番目：安田壮平 奄美市長（本学出身）、2列目右端：筆者（横山）



2022年のサイエンスキャンプでの実習風景



国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の報告書やパリ協定に関する記事など温暖化に関する研究やニュースを目にすることが多いかと思えます。温暖化の進行に伴って亜熱帯域の北方への拡大が懸念され、日本が「亜熱帯化」と言われているのです。それに伴う環境変動と生物相の変化をしっかりと記述していくことを目的の一つに開始された事業です。その中で、研究活動とともに「海と希望の学校in奄美」の活動も開始しました。奄美大島だけではなく奄美群島の12市町村を一つ一つ周り、地元の方々の意見を伺った結果、高校生の活動のサポートを行おうという考えに至りました。今後温暖化がさらに進んだときに、社会の中核として活躍しているであろう高校生たちに向けたプロジェクトです。自然や文化などについて関心を持ってもらうために、生徒さんたちの探究学習をサポートしたり、様々なメディアから流れてくる科学や環境に関するニュースに興味を持ち、その内容について判断できるためのサイエンスリテラシーの向上に取り組んでいます。地元で大学がない奄美の方々の期待は大きく、毎年秋に行っているシンポジウムでは、首長さんを初め教育機関や一般の方々の発表も多く、熱量の高さを感じずにはられません。東大の学内でも大気海洋研究所や医科研のみならず、文学部や新領域、農学系や

理学系、総合文化研究科や情報学環などの先生方にも入っていただき、幅広い議論の場となっています。もちろん、高校生だけに限った活動ではなく、WWFや日本自然保護協会などと共同で、小学生向けに「さかなクン」と一緒に講演会を行

なったり、地元のダイバーとサンゴ礁の状況チェックの活動を行なったりもしています。また、地元の鹿児島大学や九州大学、亜熱帯研究で先行する琉球大学とも連携しながらの取り組みを進めるとともに、教育学に関するコホート研究を徳之島で続けられている慶応義塾大学のグループなどとも連携を進めているところです。奄美の高校生に広くサポートができるよう、奄美群島の高校を結んで大学等と連携を行う「奄美群島高校探究コンソーシアム」も立ち上がりつつあります。

三陸での取り組みと異なり、大気海洋研究所のスタッフが常駐できる設備がないため、同様の規模で機動性を持った活動ができないのが残念なところです。しかし、海と希望の学校in奄美がローカルアイデンティティについての高校生や若者の認識の向上などに資するべく活動を広げていければと思っています。ご協力いただける先生方がいらっしゃいましたらご一報ください。ありがたさまりよ一た（ありがとうございました）。



2023年8月に大気海洋研究所にて奄美の与論高校と岩手の大槌高校が合同で行ったサイエンスキャンプ。奄美の参加者とも交流しました



「海と希望の学校」公式 X (@umitokibo)

制作：大気海洋研究所広報戦略室（内線：66430）



ぶらり 構内ショップの旅

第22回

こなかふえdeごはん@本郷キャンパスの巻

発酵のチカラで腸内環境を整える

理学部1号館1階にある「ネオポンテTokyo」に出店しているテイクアウト専門店「こなかふえdeごはん」。塩麴や味噌などの発酵食品を使ったランチを提供しています。

メニューは「味噌豚角煮丼」(¥900)、マグロたたき丼(¥900)、サラダボウル(¥700、ハーフ¥500)の3種類。角煮丼の豚バラ肉は塩麴に一晩漬けたもの。柔らかくなった豚肉の味付けでも麴にこだわり、味噌を使っています。カラーゲンタツぶりのこの丼を毎回オーダーする常連さんも多いそうです。マグロたたき丼に付く醤油は、麴と合わせて5日間寝かせたもの。麴を足すことで甘味が加わり、味がまるやかになるとか。ご飯は、白米と雑穀米の2種類から選べます。野菜をたっぷり食べることができるサラダボウルには、追加¥200で日替わりの「主菜」をトッピングすることもできます。主菜は「エビ・タコ・イカの塩麴和え」など2種類が日替わりで登場します。サラダにかけるドレッシングにも塩麴が使われています。

発酵食品へのこだわりは、腸内環境のためにいいものを提供したいとの思いからだと言います。店主の伊藤太さん。新型コロナウイルスの後遺症に苦しんだ経験から、健康のためには腸内環境を整えることがいかに重要かを学んだと話します。「発酵食品の良さを伝えたいと思っています」と伊藤さん。

お客さんとのコミュニケーションを大切にしているという伊藤さんが心掛けているのが「ノーと言わないサービス」。メニューについてリクエストがあれば、何でも相談してみしてほしいそうです。 ※価格は税込



うずらの生卵がのった「マグロたたき丼」(¥900)。
営業時間●平日11:00-15:00 (変更する場合があります)

https://www.w-tokyo.com/neoporte/neoporte_tokyo/

デジタル万華鏡

第39回

東大の多様な「学術資産」を再確認しよう

医学部・医学系研究科
図書情報チーム図書整理担当係長

塩川由紀

呉秀三のシーボルト研究

日本の近代精神医学を確立した呉秀三(くれしゅうぞう) (1865-1932) は、シーボルト研究でも有名です。オランダ王室から勲章を授与されることとなった労作『シーボルト先生：其生涯及功業』(1926) は、1,000ページ越えの大著で、多数の図版が掲載されており、まさにシーボルト大図鑑といった観を呈しています。この著書に使用された写真の一部を含むガラス乾板が、2017年3月に精神医学教室から医学図書館に移管されました。コレクション名を『精神医学教室旧蔵ガラス乾板』としています。

当時は写真自体の不要な部分を黒いテープで隠したり墨で塗ったりして印刷に使用していました。こういったマスキングで囲まれた部分と著作に掲載されている画像が一致しているため、これらの写真が呉の著作に使用されたことが分かります。



『高良齋書木額』 マスキングの例

呉の著作の掲載写真の多くは、その原本や所蔵者についてキャプションに記されているので、照らし合わせれば何の写真が分かりますが、なかにはその記載がない写真もあります。このシーボルトの台紙付き写真は『シーボルト先生：其生涯及功業』に「再渡来当時の写真」として掲載されているものですが、所蔵者の記載がありません。

『精神医学教室旧蔵ガラス乾板』コレクションには、シーボルトに関心がある人なら見たことがある写真が多数含まれていると思います。「医学図書館デジタル史料室」のサイトで本コレクションをご覧いただけますので、「この画像は見たことがある」、「この人物や建物を知っている」など、情報がありましたら医学図書館までお知らせください。



シーボルト写真 (1859年)

<https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/medlib/item-set/1379946>

ワタシのオシゴト 第213回

RELAY COLUMN

研究推進部
博物館事業課 弥富有希子

研究と展示のあいだ



骨が語る人の「生と死」展。マッチョマン

本郷キャンパスの端、懐徳門を入った奥に東大の博物館があることを、まだご存じない方もおられるかもしれません。学内で蒐集された貴重な標本の数々を展示する当館ですが、総合「研究」博物館の名の通り、文理融合型の研究部局でもあります。私のチームでは、執行経理、契約、資産管理などの会計業務全般を担当しています。

博物館では請求書類も独特です。昆虫や貝・鉱物などの標本購入費から動物遺体の輸送料、遺跡発掘調査の謝金まで、個性豊かなものばかり。伝票からあれこれ想像を膨らませ、時には現場に入りもしながら、研究と展示の傍で日々働いています。少し前に科博のクラファンが話題になりましたが、増え続ける標本の収蔵場所に困っているのは当館も同じ。館内には標本箱が天井まで山積みのお部屋も…。

いろいろと課題も多いですが、先生方との距離も近く、刺激のある職場で楽しく仕事しています。現在特別展を開催中の当館へ、ぜひ一度お立ち寄りください！



事務室と展示室は同じ1階。すぐ行けます

得意ワザ：PTAでバドミントンはじめました
自分の性格：大ざっぱで図太く物怖じしない
次回執筆者のご指名：府川智行さん
次回執筆者との関係：家族ぐるみのおつきあいのババ友
次回執筆者の紹介：頼られ放題のワーカホリック

蔵出し! 文書館

The University of Tokyo Archives



第48回

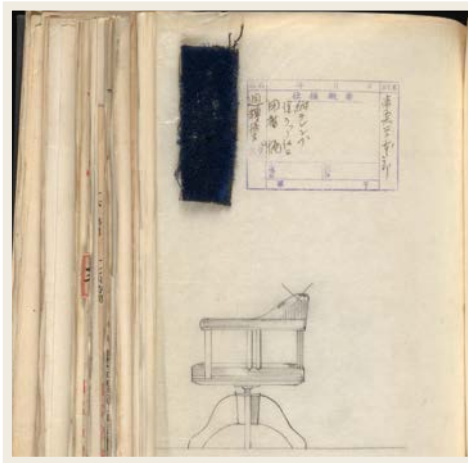
収蔵する貴重な学内資料から
140年を超える東大の歴史の一部をご紹介します

生地見本がついた公文書

～昭和4年の木製オフィス家具納入～

今回ご紹介するのは、昭和4年に東京帝国大学と東京高等工芸学校（現・千葉大学工学部）の間で交わされた、木製オフィス家具の製作発注から納入に関する文書です（S0003/44/0052『官庁往復 昭和四年 下巻』「片袖机外一点代納入告知書ニ関スル件」）。この文書には、東京帝国大学から東京高等工芸学校に対して木製の事務用片袖机と回転椅子、合計42点の製作を発注したこと、それらがおおよそ1ヶ月で納品されたこと、代金は960円であったこと、などが記されています。

一連の文書には、簡単な家具図が添えられた見積書も含まれています。下の画像は、回転椅子の図面です。



図面上部に記された仕様概要をみると、椅子の材質はナラで、張り地として紺色のテレンプ（パイル織物の一種）が用いられていることがわかります。そして、仕様概要の傍らには、紺色の布地が添付されており、現在もきれいな状態で残っています。納品された椅子のイメージは描かれた図から想像することはできませんが、傍らの生地見本に触れることによって、想像の解像度が高くなるように感じられます。本文書は、当館のデジタルアーカイブからもご覧いただくことはできますが、布地の質感まではなかなかお伝えしきれないのが残念なところです。

なお、オフィス家具の形式や寸法、品質といった標準規格「日本事務用卓子及椅子単純化規格」が定められたのは昭和9年のことですが、本件発注先の東京高等工芸学校木材工芸科にはこの規格の原案作成で中心的役割を果たした木楢恕一が教授として在籍していました。昭和4年に納入されたこの片袖机と回転椅子も、のちの標準に近いものだったのかもしれませんが。

（千代田裕子・特任研究員）

インタープリターズ・ バイブル

第198回

総合文化研究科教授
科学技術コミュニケーション部門 **廣野喜幸**

心眼

昨年（2023年）の猛暑には、うんざりさせられた。自律神経失調症で体温調整機構に問題を抱える身には大層堪えた。さらに困ったことがもう一つあった。昆虫飼育の趣味をもつ私——私はもともと昆虫生態学者だ——にとって、深山（みやま）という低温環境に適応したミヤマクワガタを飼育するには、猛暑は致命的な脅威である。発泡スチロールにアルミ箔を貼り、凍らせたペットボトルの水を用いる超簡易温度調整システムで常時23℃前後以下に保つには、頻繁にペットボトルを交換しなければならない。そんな暇などない。

今回はいさぎよく諦めよう、全滅してしまっただろうからと、昨年末に飼育ボトルから土を掻き出しはじめたところ——よかった！半分ほどが見事成虫に羽化していた。しまった！だったら、放置しておくべきだった。ミヤマクワガタは幼虫で2年過ごし、夏に羽化した新成虫は雑なつくりの蛹室で越冬し、翌年の初夏頃から活動を始める。越冬を乱してしまったじゃないか。あわてて越冬用の飼育ケースを用意したが、さて、今年の初夏まで生きつづけてくれるかどうか。

なにぶん、クワガタ類の幼虫は不透明な飼育ボトルの土の中において、様子は皆目わからない。イヌやネコなどと違い、ほとんどコミュニケーションがない状態で付き合わなければならない。クワガタ飼育には「心眼」が必要とされる所以である。



科学コミュニケーションにおいて、人々は自分が何を知らたいのかがわかっていないことが多い。それを見抜く心眼が科学コミュニケーターには、やはり大いに必要となってくる。

心眼を発揮できない私は、科学コミュニケーター失格のようだ。ということで、撤退することと相成りました。老兵は過ぎゆくのみ。これまで、どうもありがとうございました。再見、多保重！

科学技術インタープリター養成プログラム

ききんの **き**

寄付でつくる東大の未来

第52回

社会連携本部渉外部門
副部門長

高橋麻子

寄付で税金の使い道を選ぶ

寄付者個人が受けられるメリットのひとつに寄付金控除があります。東京大学も税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けられる寄付先のひとつです。

寄付を申告することで、所得税、法人税、相続税、一部の自治体の個人住民税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。所得税や住民税などの税金は、所得金額などに応じて計算されますが、寄付の合計額に応じて所得金額から課税所得を差し引くことができるのが寄付金控除です。

寄付金額（総所得金額の40%が上限）から2千円を差し引いた額の40%を所得税額から控除（所得税額の25%が上限）でき、所得控除と税額控除のうち、所得金額に応じてどちらか有利なほうを選ぶことができます。

●税制上の税法上の優遇措置（寄付金控除等）について



(例1)

東京大学のUTokyo NEXT150へ30万円寄付した場合（課税所得800万円・東京都在住）

⇒所得税と住民税の寄付金控除額計＝98,340円

(例2)

東京大学の修学支援事業基金へ10万円寄付した場合（課税所得500万円・千葉県在住）

⇒所得税と住民税の寄付金控除額計＝49,000円

控除額の目安がわかる東大基金の寄付金控除シミュレーターはこちら



寄付した金額の最大50%近くまで、税金額が少なくなります。これは寄付の実質負担が減るだけでなく、寄付という行為によって本来納税すべき税金の一部を自身が賛同する活動分野への使途に充てている、ことにもなります。つまり寄付は社会貢献だけでなく、意志ある税金の使い方にもなっているとも言えます。せっかく納める税金ですから、一部の使途指定ができることは嬉しいですね。

ただし寄付金控除を受けるには確定申告が必要です。お手元にある領収書をすべて確認し、申告することをお忘れなく！

よくあるご質問

Q. 東京大学へ寄付して税法上の優遇措置を受けると、ふるさと納税の限度額に影響はありますか？

A. 影響ありません。（詳細は東大基金HPをご覧ください）

東京大学基金事務局（本部渉外課）

トピックス 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles)に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル (一部省略している場合があります)
1月15日	本部広報課	令和5年度退職教員の最終講義2月開催分のお知らせ
1月15日	リサーチ・アドミニストレーター推進室	令和5年度リサーチ・アドミニストレーターの認定
1月17日	本部学務課	SPRING GX 2024年度春入学の博士課程出願者を対象に募集開始
1月17日	広報室	大植の太士先生が見つけたカニの新種と新しいカニ学
1月18日	本部学生支援課	剣道部主催による七徳堂新年稽古会が4年ぶりに開催!
1月18日	本部渉外課	「ソーラーボートプロジェクト支援基金」へ寄付募集を開始
1月18日	本部渉外課、新領域創成科学研究科	「次世代X線ダイナミクス計測技術研究基金」寄付募集を開始
1月19日	本部渉外課	「先端研がん克服プロジェクト基金」寄付募集を開始
1月19日	本部学生支援課	アメフト部太田選手が全日本選抜チームのメンバーに選出!
1月22日	本部入試課	令和6年度第2次学力試験出願状況速報
1月29日	総合文化研究科・教養学部	「駒場リベラルアーツ基金」2023年活動報告を公開
1月29日	産学協創推進本部	未来社会協創推進本部と一般財団法人Soilがワークショップを実施
1月29日	本部研究倫理推進課	令和5年度研究倫理セミナーを開催
1月30日	カブリ数物連携宇宙研究機構、物性研究所、宇宙線研究所	第8回「やっぱり物理が好き!」を開催 ~物理に進んだ女子学生・院生のキャリア~
2月5日	生産技術研究所	英文広報誌「UTokyo-IIS Bulletin」Vol.13を公開
2月6日	相談支援研究開発センター	セラピードッグとのふれあい体験を開催
2月6日	本部協創課	AI House Davos (2024.1.15-1.19) 開催報告
2月8日	グローバルリーダー育成プログラム推進室	グローバルリーダー育成プログラムGLP-GEFILの第7回修了式を開催
2月8日	本部広報課	令和5年度退職教員の最終講義3月開催分のお知らせ
2月9日	広報室	ガザ危機と中東の激動 / キャンパスから読み解く



CLOSE UP セラピードッグとのふれあい体験を開催

(相談支援研究開発センター)



ピアサポーターも参加しました

12月11日、本郷キャンパス第二購買部前で、本学学生と教職員を対象に「セラピードッグとのふれあい体験」を開催しました。当日は、相談支援研究開発センター各室(総合窓口・学生相談所・精神保健支援室・留学生相談室・コミュニケーションサポートルーム・ピアサポートルーム)の紹介パネルを見てもらい、その後一般社団法人アニマルセラピーこころサポート協会の4頭のセラピードッグと交流しました。運動会の協力を得て公式マス

コットキャラクターのイチ公も登場、523名が来場し大いに盛り上がりました。4時間の開催時間内で何度も来た職員さん、お気に入りのドッグとじっくり交流する学生たち、セラピードッグと一緒に撮った写真でブックマークを作成するブースもあり、全員が笑顔満開で楽しんでいました。会場では、当センターの各種リーフレットも配布し、構成員の皆さんに気軽に利用してもらうきっかけ作りとなりました。



CLOSE UP 令和5年度のURA 認定証授与式を開催

(リサーチ・アドミニストレーター推進室)



岸執行役・副学長(前列中央)との記念撮影

東京大学が独自に行っているリサーチ・アドミニストレーター(URA)認定について、令和5年度のURA認定証授与式が、12月22日に安田講堂大会議室で開催されました。

リサーチ・アドミニストレーター推進室副室長を務める岸利治執行役・副学長からの挨拶では、部局・研究室単位ではURA文化が根付き、多くのURAの皆さんにご活躍いただいているものの、本部に所属し全学に向け業務を行うURAはまだ少ないという東京大学のURA制度の現状についての言及がありました。その上でURAのボトムアップの取り組み、ま

たURAネットワークというものがあるのが今後非常に重要になってくるので、今回の認定を機に、それぞれの現場での取り組みに加え、URAネットワークの運営や全学に向けての業務にも、より一層のお力添えをいただきたいとの期待を寄せられました。

平成28年度から開始した本学のURA認定制度は、今年度で8年目を迎えます。今年度は「東京大学URA」10名、「東京大学シニアURA」2名の認定がなされ、本学のURA認定者はのべ115名となりました。令和6年1月時点で66名が在籍しています。



CLOSE UP 「課題解決のための社会起業」ワークショップを開催 (産学協創推進本部)



Soilは、「儲からない」けど「意義がある」を支援するため、非営利スタートアップに創業期資金を助成している財団です

12月2日と9日の2日間、一般財団法人Soilと本学未来社会協創推進本部の共催で「課題解決のための社会起業」ワークショップを駒場キャンパスにて開催しました。12月22日には、受講生を対象とした助成プログラム「Soil 100」の最終ピッチを開催しました。

ワークショップでは、本学出身の社会起業家による講演として、株式会社リバネス代表取締役・グループCEOの丸幸弘氏、株式会社ユーグレナ代表取締役社長の出雲充氏が登壇し、社会起業を目指す学生30名に、ご自身

の活動や考え、激励の言葉を語っていただきました。講義を踏まえ、グループに分かれてそれぞれの事業計画の紹介やフィードバック、メンターとの壁打ちを行い、事業計画をブラッシュアップし、最後に全体でのプレゼンテーションを行いました。その後、起業を目指す学生が「Soil 100」に応募し、書類・面接選考を経て、22日に最終ピッチを開催。その結果、6名が採択され、活動開始のための助成金各100万円の支給を受け、専門家のメンタリングを3か月受講することとなりました。



CLOSE UP グローバルリーダー育成プログラム第7回修了式を開催 (グローバルリーダー育成プログラム推進室)



終わってみるとあっという間だった2年間。31名の修了生の皆さん、おめでとうございます！

1月26日、後期課程学部学生対象のグローバルリーダー育成プログラム (GLP-GEFIL) より31名の修了生が誕生しました。GLP-GEFIL修了生は累計334名となりました。GLP推進室室長の福士謙介教授の挨拶の後、修了生には担当理事・副学長の林香里教授より総長名での修了証が手渡されました。引き続き、林理事より式辞を、津田理事から祝辞をいただきました。当日は、プログラムを支援いた

だている6つの企業・団体様より、12名の皆様にご参列いただき、GLPリーディング・パートナーである住友商事株式会社常務執行役員の江田麻季子様よりご祝辞を頂戴しました。修了生の答辞は佐川弘晃さん、飯森栄治さん、廣瀬太雅さんが行いました。履修開始の2021年はまだコロナ禍の影響が色濃く、海外プログラムで渡航が一部制限を受けるなど難しい時期もありましたが、皆で協力し合っ

専門知と地域をつなぐ架け橋に

FSレポート! 第29回 (特別版)

能登町の未来に向けて FS能登町支援チーム

はじめに、この度の令和6年能登半島地震で犠牲となられた方々に心よりお悔み申し上げますとともに、被災された方々に対してお見舞い申し上げます。

能登半島の北東部に位置する町、石川県能登町。これまで7年にわたり、28人ものFS参加学生を受け入れていただいて活動を行ってまいりました。私たちは、美しい里山里海や地元の方々の温かさに魅せられ、何度も能登町を訪問して、関係を紡いできました。

今年度の活動も終盤に差し掛かっていた2024年1月1日、能登半島地震が発生しました。テレビやSNSで目にした現地の様子は、私たちが見慣れた町からは一変していました。こ

れまでお世話になった能登町に対し、自分たちにできることはないのか。その思いから、これまでのFS参加学生有志で、能登町支援チームを立ち上げました。そして、東京にいる自分たちができることを少しずつ始めていこうと考え、チームのInstagramアカウントでの情報発信や災害義援金の呼びかけなどの活動を行っています。東京大学・能登町役場と連携し、現地の中高生への支援や東大基金を活用した体験活動プログラムの開催など、能登町の未来につながる支援を進めていく予定です。活動にあたっては、学内の知見やリソースを最大限活用しながら進めていきたいと考えておりますの



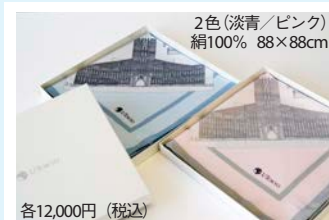
↑歴代のFS能登町生が集結し、現地のお祭りに参加 (昨年7月)

→学内に周知した義援金の呼びかけ



で、ぜひご協力いただけますと幸いです。優しさ溢れる町の方々の穏やかな暮らし、美しい里山里海、自然が育む能登の幸、独自の発展を遂げた伝統文化。かけがえのない能登を守るため、どうか皆様のご支援のほどよろしくお願いたします。

支援チームのInstagramアカウント @noto_choice2022



UTokyo 春色のスカーフをファッションのポイントに!

UTCCからのお知らせ utcc.u-tokyo.ac.jp

東京大学には各部署で保管している貴重な資料がたくさんあります。今回ご紹介するのは、施設部に大切に保管されていた安田講堂創建時の様々な手書きの図面を使ってデザインした正方形の絹100%のスカー

フです。淡いブルーやピンクは顔映りが良く、年齢を問わず長くお使いいただけるベーシックなデザイン。プレゼントにも最適です。この春の装いにプラスしてみたいかがでしょうか? (R)





Bridging old and new using artificial intelligence (人工知能による温故知新)

言語生成AIが話題である。文章要約、翻訳や解説など様々な作業が、可能になっている。この原稿を執筆している段階では、生成AIを教育や研究に利用することの是非が議論されている。特に、「本質を考える力が失われ、AIから与えられた（誤りを含む）情報を鵜呑みにして、それをそのまま使うだけの人材を生み出すのでは」という懸念が強い。

ここで、自分の研究室の学生と打ち合わせをしたときのエピソードをご紹介します。その学生は、ある系列データの解析手法について悩んでいた。系列データ解析というと、フーリエ解析に代表されるように、データを周波数分解し三角関数の波の重ね合わせで表現する手法が一般的であるが、その学生はウェーブレットという数学的手法を利用した方法を持ってきた。ウェーブレットは、系列信号を短い波の重ね合わせで表現する手法である。ウェーブレットは古くからある重要な手法だが、改めて振り返ると、限られた講義時間の中では他の最新手法を説明する時間が増え、ウェーブレットを丁寧に教える機会が減っていたのも事実である。そんなことが頭をよぎ

り、私は思わず「よくこんな懐かしい手法を見つけたね」と発言したのであるが、学生は「生成AIと議論してきました」と言って私を驚かせた。

検索エンジンはキーワードが指定できれば、欲しい情報を入手できる。いわゆる「辞書の順引き」である。しかし、キーワードを知らなければ検索エンジンは無力になる。上記の学生は生成AIを使い、やりたいことを記述し生成AIからキーワードを引き出すという「辞書の逆引き」の使い方をしてきたのである。学問とは、新しい知識や理論を発見し、それを整理・体系化したものである。知識や理論は存在を知らなければ活用することはできない。学術的発展という視点で見れば、生成AIは新たな可能性を我々に与えてくれたのではないかと感じずにはいられない。

なお、本原稿の執筆には生成AIは一切使用していない。

山崎俊彦
(情報理工学系研究科)

